

# 壊れゆく“若者たち”

## File.56 デジタル症候群 ～「ママ活」ってご存知ですか？

文 石井 通明 text by Michiaki Ishii

「ママ活」という言葉、ご存知ですか？「パパ活」でしたら知っている人もいるかと思われまます。古くは援助交際と言われていた『若い女性が年上男性と食事などをすることで、見返りに援助を受ける行為』が、現在は「パパ活」と言われておりブームになっています。そればかりか、今度は若い男性が年上女性を誘う「ママ活」というものが世間を騒がせています。つい先日、実際に「ママ活」を行っていたということがから福岡市内の高校生が補導されました。福岡県警によると援助の目的で不特定多数に交際を呼びかけたことが「不良行為」にあたるため補導対象になったということです。

このようなことがなぜ容易に起きてしまうのでしょうか。やはり、ネット社会が原因になります。例えば、ツイッターのようなSNSで検索してみると、プロフィールや希望金額などが書かれたメモとともに、「ママ活募集」の呼びかけが数多く投稿されています。また、ママ活を推奨するスマホアプリも存在しています。中には、一緒に旅行に行ってお小遣いをもらう「旅行ママ活」や、月額を定めて月に数回デートや買い物をするという「月極ママ活」があり、



*Profile*  
東京都大田区生まれ。  
英国ウエールズ大学MBA（経営管理修士）。  
日本交渉学会会員。ハーバード流交渉学・消費者行動心理学・コンフリクトマネジメントを研究。日本コールセンター協会情報調査委員。  
（株）グッドクロス取締役COO  
長年コールセンター運営に携わり、人とのコミュニケーションについての研究を進めている。思いやりのコールセンターを展開。  
beccall1031642012088  
[http://www.beall.jp]

かつてホスト遊びの経験のある女性たちが、「ママ活の方が、コストパフォーマンスが遥かに良い」とママ活を始めの傾向があるそうです。しかし、ママ活とはいえ、家庭を持っている女性であるかもしれない、慰謝料の話に発展する可能性もあります。美人局のような犯罪の可能性もあります。どこか危険を含んでいるのは間違いありません。

出会い系サイトの場合であれば、規制が存在するため、児童を誘引した人物を取り締まることが可能ですが、SNSやアプリケーションの場合、法律の適用外になることが多く、実際に摘発することが難しくなるといいます。世間のコミュニケーションの形が多岐にわたるようになってきており、利用者が法の目をうまく掻い潜る手段が頻発しています。一番怖いのは、自分の善悪の判断を容易に失ってしまうという事です。誰かの目に付く所にあれ

ば気づけることも、ネットは常に自分と目の前の画面しかないので、判断が麻痺することも多く存在します。ネット社会に感覚が浸食されていることには、もう気づけないかもしれません。

